

本稿は、6月11日にweb開催された「第23回現業評全国学習交流集会&第22回現業労働学校」での特別報告について、加筆・修正したものです。

岡山県初の義務教育学校「山南学園」開校 委託前提だった給食調理を直営に

(給食委員会) 岡山市職労

今年4月、岡山市東区山南地域の4つの小学校と1つの中学校が再編され、岡山県下初の義務教育学校である「山南学園」が開校しました。

私たちは長年「給食調理を直営でやる」といった強い思いをもって開校まで準備を続けてきました。本日は岡山市の学校給食についてお話をしたいと思います。

岡山市の学校給食の現状

自校調理方式とセンター方式、大きく2つがあります。

自校調理では直営と委託が現在4:6の割合で運営されています。センター・中学校は全て委託業者による給食調理が行われています。山南学園は当初から「自校調理方式」で行うと言われていましたが、その運営が直営なのか委託なのかの明言はされていませんでした。

義務教育学校「山南学園」とは

一人の校長と一つの教職員組織が9年間の学校教育目標を決め、一貫した教育を行う新たな学校種です。2016年から制度化され22年の開校以来増え続けています。山南学園では1~4年生が初等部、5~6年生が中等部、

7~9年生が高等部で構成されています。4つの小学校(太伯・幸島・朝日・大宮)と1つの中学校から編成されています。通学範囲が広いので、スクールバスも活用されています。

4月7日に行われた2年生から9年生が参加しての始業式は、完成した新校舎への開校式も併せて実施されました。新型コロナウイルス感染対策を徹底し、体育館で行われた式には多くのメディアも取材に訪れ「学年の垣根を超えた1つのチームとして互いに助け合う気持ちを忘れないように…」といった校長からの呼びかけもありました。

また、他にない新たな設備としては「CSR」と呼ばれるICT(情報通信技術)教育を推進するための教室・グループ学習などをするためのプレゼンルームが設けられていたり、地域の方々も活用することができるランチルームがあります。各教室にも電子黒板やプロジェクターといった最新機器が導入されており、児童生徒の学びを支える“ハード”はそろっているようです。

給食調理直営に向けての取り組み

さて、岡山市職労学校支部では山南学区の

地域住民への統合に向けての説明会が行われていた2018年秋から、一貫して「給食調理は直営で！」を訴え続け、「義務教育学校の設置方針」が公式発表された2019年には、給食部会として「直営による自校調理上を設置し、正規調理員による効率的な運営とすること」を明記した要求書を提出するなど、運動を本格化してきたところです。

給食に関しては、もともと山南中学校の給食調理は民間委託であり、岡山市のすべての中学校の給食調理も民間委託だったので、地域や周囲の方々への直営での意義を伝える場を作ることのハードルの高さを痛感しました。毎日食べている給食は「当たり前」の事になっています。大きな事故が起こっていないのだから「現状（委託）」で問題がないのです。

こうした下で私たちは、「幅広い年齢に提供する給調理業務への対応が必要であること」

「山南学園は特別な学校ではないが『新しい学校』であり、自治体としてノウハウを蓄積する必要があること」「新しい学校であることから、想定外なことにも対応出来る職員の配置が必要であること」や、「さまざまな規模の給食調理を行うことによって正規調理員の経験値を増やし、岡山市の職員としてのスキルアップにもつながる人材育成の視点」から、調理業務は直営でスタートすることを要求していきました。

そして昨年11月、岡山市教育委員会は「山南学園の給食調理は直営で行う」と回答しました。民間委託から直営への切り替えは大きな決断だったと思われませんが、あきらめずに、直営であることの必要性を訴え続けてきた結果です。

委託が前提だった「山南学園」が直営になったことで、岡山市東区では新規民間委託が

でてしまいました。職員の配置問題が大きく関与してしまっています。正規職員の比率がどんどん下がってきている中で、私たちは今年度も新規採用に向けて運動を進めていかなければいけません。採用要求書提出に向けて部会でも知恵を出し合い頑張っています。

給食室の現在

今、直営でスタートした山南学園の給食室には、私も含めた正規調理員2人と正規栄養教諭1人、再任用給食調理員1人、パート調理員である4時間と5時間勤務の会計年度任用職員2人が配置され、「チーム給食室」が始動しました。

私たちは4月1日に配置されましたが、7日の開校式の翌日から高等部の給食が始まりました。新しい施設での新しいルールづくり、そして工事はなぜか完了していない中で、初日の献立は「米粉パン・牛乳・ポークビーンズ・ミックスフルーツ・チーズ」でした。私たちが要求書でも訴えていた「想定外なことにも対応ができる」が初日から現実となり、早くも直営の力が試されてしまいました。

誰のために給食をつくるのかを忘れずに、安全でおいしい給食をつくることが私たちの第一の使命です。また給食室には多くの教職員も関わってくださっています。

安心で安定的でおいしい給食をつくる「チーム山南学園給食室」をはじめ、全国に誇れる義務教育学校「山南学園」としていくために、日々、多くの人たちと頑張っています。

今後の課題、大規模センター設立

2019年12月の岡山市議会子ども・文教委員会で老朽化している岡山給食センターの移転建替計画が発表されました。「老朽化に伴う

建て替え」にはなんら依存はありません。現存の岡山給食センターは1971年に開業し、50年経過している給食センターです。子どもたちの安心安全を担うためには「建て替え」は急務です。

そういった中で、岡山市は2022年6月には新築移転先に岡山市中区海吉に決定したことを明らかにしました。現在の5中学校・約2500食分から、12中学校の7500食の調理が可能な巨大調理場となります。2025年9月稼働開始を目指し、民間事業者が施設の建設や運営を担PFI(民間資金活用による社会資本整備)方式を採用していく方針です。さらに全ての中学校(現在24校が自校方式)の自校方式を廃止しセンター方式に変えていく考えを示しています。小学校は自校方式を原則維持するとしていますが、「規模によって検討」ともしています。

この間の学校給食運営検討委員会では、委員である小中学校長や有識者から「自校調理場を残して欲しい」との意見が多く出されています。しかし、意見は出されただけで、「コスト」を理由にした教育委員会事務局の集約化提案の是非について議論が尽くされたとは言えません。

今後も教育としての給食を「公」が責任をもって学校給食を遂行していくために、地域住民や市民への情報を提供しながら進めていきます。

全国の皆様と一緒に意見交換しながら、岡山市の学校給食の充実に向けて尽力していきたいと思っています。